鹿児島カトリック教区報

〒890 鹿児島市
田上町唐湊 1685
鹿児島カトリック教区報社
電話　0992 54－1670
振替口座 鹿児島 4953
編集発行人　松森孝郎
1部20円年間〒共350円
印刷所　南日本印刷

神の子は受肉することによって、ある意味でみずからをすべての人間と一致させた。

（現代世界憲章22より）

私の場・私の使命

鹿児島社研講演会より

社会問題研究会が当教区に発足して一年。あまりメンバーは多くならないようだが着実に、その活動を続けている。

通常の集まりは、毎月第三火曜日の夜、七時から、センターで聞かれ、現代世界憲章を読んでいるので、共に研究し、語り合おうという方は、どうぞ積極的に参加してください。

鹿児島カトリック社会問題研究会では、この夏八月三十一日の夜元東京家庭裁判所判事、森田宗一氏を招き、鴨池教会で「現代家庭と青少年」と題する講演会を催した。どこの家庭でも、日常ぶつかっている悩みや心配に対して、このように豊富な体験をもつカトリック者から直接に話が聞けたのはありがたいことだった。

私たちは日常、子供たちとの問題を物やお金で、簡単に解決しようとしているところがあるが、相手をよく理解し、心と心で解決するよう努力しなければならないとさとされた。

この講演会につづいて、九月三十日午後七時から研修センターで神戸大学教授野尻武敏氏を囲んで「経済発展と人間」というテーマで講話と座談の夕をもった。

野尻教授は経済政策学者としての立場から、高度成長のもたらした不条理、それによって生じた成長の限界、その現状と人間の将来という三点にわたって、熱をこめて話された。

〝我国の経済は、戦後、重化学工業を中心に驀ぐべき痛展をとげたが、その反面、公害などいろいろな問題をひきおこしている。

元来、経済活動は、人間が人間のために営むものであり、同時にそれを支える自然なくしては成立しえないものであるが、物質主義経済主義が経済拡大のためあらゆる物を犠牲にした結果、この不幸を招いた。

我々は、自然を征服するという傲慢な考えを捨て、自然の中に生きる姿勢を取りもどすことが必要である。今こそ、人間に還り、自然に還り、神に還り、失われた共同体を取りもどすことが必要であろう。〟（この講話の内容は「声」誌十月号から三回にわたって、同教授の論説として掲載されるはずである）

これらの講師のように、自分の職業を通じて、人間の大切なことを理解させ、自然を、神を見出させるのは素晴らしいことである。これこそ、世の中にあって世の光地の塩となることであって、信徒使徒職の本来の姿ではなかろうか

お知らせ

さきに、教区報〝発行所〟の移動をお知らせいたしましたが、振替などの関係もあり、これを機会に〝発行所名〟も左記のように変更し、十月初め、手続きを終りました。

これらの変更により、通信や送金などにつき、ご迷惑をおかけ致しますことを、おわびいたします。そして、今後一そうの御指導、御協力をお願いいたします。

記

新発行所名　鹿児島カトリック教区報社
その所在地　〒890　鹿児島市田上町唐湊一六八五番地
振替口座　鹿児島4953
加入者名　鹿児島カトリック教区報社

（編集部）

道標

反省と希望

先日、数人の青年が訪ねて来て、いろいろ話し合った。研修センターに移ってからは、訪ねてくることが珍らしく、夜おそくまで話がはずんだ。

○ゲバ棒や赤旗を賛美するわけではないが、あの若者のファイト、町でふれ合う人々と比較しても、教会の人は何とおとなしいのだろう。自分の家に帰ったら、又、職場や学校では、もっと活発だと思えるのだが、教会の中ではどうして、ひっこみ思案になるんだろう。

○みんなそれぞれに良い事を思っていても、実行せぬ。それとも、実行できない何かがあるんだろうか。

○何か良い考えがあっても、それを言うと、自分がやらなければならない。あるいは、自分が責任をとらなければならない、とでも思っているかのように、発言を控えるような感じがする

○何かしようとする時など、理屈ばかり多くて、実行は、なかなかむずかしい。

よく分らないが、何か足りないものがあるのではないか。

このように言って、しかし一歩前進とつづける。

☆教会のグループは、他のものと比べて、条件が良いと思う。みんなが同じ心で集ってるのだし、良い指導をいつも受けているし、集まる場所もあるし、組織もしっかりしている……

前進

いままで述べたようなことは、どこででも聞かれることだが、中の一人が、これにつづいておもしろいことを言った。

☆どこが悪いのか？と、原因をさぐることもできるが、そんなことをするより、ともかく、何をしなければならないか、何ができるかを考えて、さっそく実行することが大切だ。少々失敗しても良いではないか、失敗しすぎると、本質を見誤ることになろう。お互いが邪魔をし合うのでなく、助け合い補い合うような関係にもって行くべきではなかろうか。

お互いさま

私たちが何かするとき、教会の事ばかり考えて、外との交わりや、外のためにするという事に弱いのではなかろうか。

たとえば、聖堂の掃除はするけれども、教会の前の道を掃除するようなことが、どれほどあるだろうか。

私たちのできる仕事は、このように、足もとにも、たくさんあることだろう。このような事の積み重ねが、だんだんに、体を動かすことを教えてくれることだろう。そして、それは新しい仕事を生み、新しい人との交わりを生んでくれることだろう

（教区報担当）

聖血礼拝修道女会独立

鹿児島教区の東の端、霧島の山中で静かに、力強く祈りつづけている人達、その聖血礼拝修道女会が、このほど本部修道院から独立することになった。

これは、今年の夏の総会において決定したことであるが、さる十月二日、糸永司教の立合いのもとに選挙が行なわれ、スール・マリインマクラタ松下が院長に選ばれた。こうして、自然管理の形も整い、ますます力強い歩みを、つづけることであろう。我々も、その祈りにより頼みつつ、自分の道をしっかりとみつめて行きたいものである。

八年余の労作

聖書思想事典出る

当教区の小平卓保神父が、この数年来、「聖書事典」の翻訳のために、福岡の大神学校でイエル神父様といっしょに働いていたことは皆様ご承知のことと思いますがいよいよその翻訳が完成し、やがて十月の末に三省堂から「聖書思想事典」として出版される運びとなった。

イエル神父さまの監修のもとにこの翻訳の仕事が始ったのは、八年前のことで、福岡のカルメル会のシスターと小平師の努力によって、三年ほど前に一応翻訳は終った。しかし、その間に原本の改訂版が出た事もあり、又、シスターの転任に伴い新しく福岡大学の河井田先生の協力が得られ、訳語を選び訳文を練り、また索引を整備するなど徹底的に検討して、今度、日の目を見るようになったわけである。

この事典について知っていただくためには、何よりも直接に手にとって貰うことが一番の近道と思うが、二、三説明することを許していただきたい。

まず、岩国の教会では、出版される前から、初校のコピーを使って、聖書研究のために使ってきているが、「食事」・「水」・「命」・「光」などの日常の出来事にも、深い神秘が宿されていることを知り、深い感銘を受けていますと、感想を寄せている。

この事典が「聖書思想事典」として出版されたのは、一部の学者のための本ではなく、すべての人が、この事典を通して、聖書の民の生き方に触れ、また、聖書のより深い理解の助けになるようにとの心がこめられている。

この中には、聖書の内容を知るために鍵となる語三百三十一項目を収め、聖書のおもしろさと深さを味わせるもので、ゆっくり味わいながら読む事典ということができるであろう。

この事典が、みなさん方ひとりひとりのために、みことばへの導きとなりますように。

完成近い星塚聖堂

ここにも愛の献金

星塚敬愛園の聖堂建築は、すでに進められていることを、前号でお知らせしましたが、秋空のもと工事は順調にすすみ、年内には完成の見込みということです。みなさんの善意に支えられながら、苦労して、ここまでこぎ着けただけに、信者さんたちの喜びも、ひとしおの事と思います。

さて、その工事のために、私たちは、四旬節の愛の献金をお送りしましたが、それぞれの方から直接に星塚へ送られたものが、記載もれになっていました。星塚教会からの連絡をここに掲載します。

四旬節愛の献金（追加）

枕崎教会	¥45,321
名瀬市和光園教会	27,000
安木屋場教会	5,300
亀津教会	1,000
川内純心女子学園	75,000
レデンプトール女子宣教会	5,000
聖心愛子会米之津修道院	4,000
幼きイエズス会名瀬修道院	3,000
善き牧者上福元町修道院	2,000
名瀬天使園	3,000
計	170,621

人事

○下村徹師
かねて、肝臓疾患のため、紫原病院に入院加療中であったが、10月13日、よりくわしい検査のため、神戸海星病院に移った。

○米満修道女（カルメル会）
ザビエル教会出身の米満修道女は、さる9月8日、福岡市神松寺のカルメル会修道院において平田司教司式のもとに、初誓願を宣立した。

☆大口明光学園校長交替
新高長、吉田文子修道女が、10月15日、大牟田明先学園より着任した。
前校長、肥塚ノブ子修道女は、奈良の聖ヨゼフ老人ホームに、転任した。

11月4日に鹿児島市内共同墓参

11月は死者に献げられた月で、毎年、鹿児島市内の信者は、田上町の唐湊墓地に集まり、私たちの先輩のために祈りを献げてきたが今年は、11月4日（日曜日）第二ミサ後、共同墓参することになった。

当日は、午前11時までに、祈禱書、聖歌集を持参の上、唐湊墓地に集合されたい。

なお、その日が雨天であった場合は、11月11日（日）に延期する予定である。

典礼を考える

待降節

神が近づいて来られる

待つ

南の国も、十一月といえば、そぞろ秋を感じる。木の葉の落ちた木々、根だけになったような草。しかし、そこには、ただ失なわれたもの、滅びるものの、さみしさだけではなく、来るべきものへの期待が、準備が脈うっている。

やがて、典礼歴は待降節を迎える。これは、光の君救い主を待ち望んで祈りつづけた旧約時代の象りでもある。私たちも〝天よ、露をしたたらせ、雲よ、義人を降らせよ〟と叫びつづけた旧約の義人らになって生活を整え、憧れを燃やすよう準備したいものです。

しかし、新約時代に生きる私たちにとって、キリストの十字架と復活によって実現している、その恵みの時に生きる者にとって、キリストを待ち望むということは、世の終りにおける再臨による救いの完成を待ち望むという意味をもっています。待つということは、旧約時代の記念ということだけでなく、未来への希望が入っているわけです。

…へやって来る

ところで、待降節のことをラテン語ではアドヴェントウスと言いますが、これはアド（…へ）という接頭語と、ヴェニーレ（来る）という動詞からできたことばです。ですから〝…の方へ来る〟という意味をもつわけです。

どうしても生まれたかった

ルカの伝えるご降誕の場面を読んでみましょう。。

2章の1節から14節まで読んでみてください。よくご存知のところと思いますが、産期満ちたマリア様には宿もありませんでした。〝宿はない、満員だ。貧乏人なんかあっちへ行け〟と断られました。この小さい赤ちゃんは、断われたら断われたで、そのまま戸口から去り、黙って生まれてしまいました。それほど生まれたかったのです。

このご降誕は、今も、この日本でも行なわれています。断われたとしても、即ち、キリストに背を向けキリストをないがしろにする生活をしていても、生まれてくださるのです。一人々々とつながりを持ちたいのです。

こうみてくると、我々人間が待つ…ということから神が近づいて来られる…という事実に移り変っていることに気がつくでしょう。

待つ

さて、このように神よりの働きかけを観るとき、いま既に、この世に現れてはいるが、まだキリストのうちに隠されている救い、完成に向っている姿の中に、己れの姿をも見出すことができるであろう。そして、自分の足りない姿、しかしそこには、キリストが近づいて来てくださるという、喜びと希望のうちに、見直すことができるであろう。

未完成の姿、しかし、そのすべてのものへの、神からの呼びかけによって、待つという態度も見直されることだろう。

こんにちは

ここ数年来世界各地で司祭や修道者の召出しが減少して心配されたが、最近きいたところによると、ある国々ではようやく司祭志願者が増加しつつあるという。

わたしたちの教区ではまだ増加のきざしはみえない。現在、大神学生（まだ哲学科）二名、小神学生二名である。これは教区の短かい歴史の中でも一番少いのである。

神学生募集について

米永司教

司祭召出しはその名の通りキリスト様からのお召しであるが、しかし同時にキリスト様はわたしたちの協力をもそのために求めておられる。

司祭召命の芽を育て、神学生の募集をするのは、誰よりもまず司祭の責任である。一月になれば神学校入学の手続きがはじまるので、年内にぜひ神学生候補者を探していただきたい。

男の子供をもっておられる両親の協力もお願いしておきたい。真の信仰をおもちなら、司祭職が男子の一生をかけるためにもっともふさわしいものであることを理解していただけると思う。

司祭召命のために祈り、司祭養成を助けるのは、教区民全体のつとめである。司祭たちばかりではない。子供を捧げる両親ばかりでもない。子のない信者も修道者も、みんなで召出しの増加を祈り、神学生を霊的にも物的にも援助しなければならないのである。

司祭養成のための経済的援助手段として一粒会があり、毎年多額の献金をいただいているので感謝にたえないが、これに加えて、神学生募集のためにもみんなで関心をもち、そのために協力してほしい。司祭職を敬い愛し、自分たちの間からその司祭が召し出されることを一心に願う教会共同体こそ、司祭を生み出す不可決の下地となるのである。

祈りと教育を！

七田ポーロ神父様より

九月十五日、敬老の日などでもそれぞれに、私たちの大先輩に感謝し、その方々に何かの慰めをと、いろいろしていることでしょう。

鴨池教会でも、近くのご老人のために、いろいろやってきたが、それに加えて、二・三年前から、熊本市の、みこころ病院に入院中の七田八十吉神父様（ポーロ神父様）にも信者一同から、何らかの贈り物をして来た。今年の敬老の日のプレゼントに対しての、七田八十吉神父様からの美しいお礼状を見せられ、それは私たちひとりびとりのためにも、大きな教訓になると思い、ポーロ神父様のお許しをいただいて、ご紹介いたしますから、自分自身への呼びかけを聞きとってください。

× × ×

主の平安

敬老の日、皆様の敬虔な聖いプレゼント、かたじけなく心から厚く御礼申し上げます。

早速、皆様各自の御意向のためにミサを献げ、今は二千名近くに発展いたしました鴨池教会が、鹿児島教区の信仰の根城として、千果、万果の実り豊かな大木に成長いたしますよう、祈りつづけます。

山川、指宿、加世田、谷山、川内、出水、大口、加治木、垂水、鹿屋と遍歴し、度々不毛の地と嘆いても、祈りの力と教育の力は信じていました。ポン・パストール・サールに渾身の努力を献げましたのは、実にローマのヴァチカンでピオ十一世に拝謁の際、〝祈りの生活と教育事業〟を布教地に特に要望されましたいきさつがございます。「ポーロは植え、アポロは水を注いだが、成長をたもうのは神である」という大使徒のことばと「私なくしては、あなたたちは何もできないのだ」という、キリスト様のおことばを肝に銘じ祈りによって神の助けがなければ永久に不毛である現実を体験いたしました。町にも、奥深い山間にも自転車は走りました。結んだ実があるとするならば、祈る人々が居たからと切実に感銘いたしております。

皆様の教会の基礎を不動のものとし、ますます発展の将来を確保するためには、先ず子供に祈りのしつけを確実に進めていただきますよう伏してお願いいたします。

私の療養生活も、ここに満四年になりました。一進一退の毎日ですが、祈りと犠牲の生活は療養ぼけがないようつとめております。

皆様各自に神の御愛護をたまわりますよう、ごミサと共に祈っております。祈りの中に皆様の御厚情は決して忘れません。最期まで皆様と祈りで結ばれて生きのびることができますよう、これが最上の願いでございます。ありがとうございました。

九月二十五日

七田ポーロ神父

鴨池教会信者御一同様

健康としあわせつくる
いの池田パン
福岡・熊本・鹿児島・宮崎

信仰の中の生活 ⑦

踊りと祈りと

竹山昭

先日、「旅行する」と聞いていたので、ちょうど今頃は街でも歩いていようと思っている矢先に当の本人が訪ねてみえ、びっくりしたことがある。しかしその娘さんの口から、「ほんものの能の舞台を観たい」と言われて二度びっくりした。まるでその娘さんの印象からは予想もできない組合せに思えたからである。

しかし、おかげで、久しぶりに数年前想い描いた「激しく回る独楽（コマ）」と「祈り」の類比を新たに考える機会を得た。

「回る独楽」

数年前、論文を書く間を縫って「能」の入門書・思想書を読み漁った時期がある。そのおりの一冊に、能の重要な構成部分である「クセ」を説明して述べてあった。

「クセには、『舞グセ』と『居グセ』がある。…舞台に座して動かぬ『居グセ』は（舞グセよりも）さらに高度の表現の持続でなければならぬ。物体から重心だけを取りだしてすべてを表現しようとするようなものだ。」

北原白秋の詩「白金の独楽」に托して、その人は更に能の根本理念を説いて言う、「もっとも激しく回転する情念を、舞台に一点を占めて動かない静止の姿で表現する。能の根本にある理念はこれだ。」

白秋の詩の一節にはこういうたわれている。「極マル独楽ハ目ニ見エズ」最も激しく回転している時の独楽は、目には静止の状態に映る、との意であろう。

それ以来、私には、「激しく回る独楽」に「祈る人」の姿が重なり合って映る。人は、「祈りの中に神の前に立つ」時、いわば「最も激しく回って一点に立つ」独楽の姿になる。

フランスの著名な俳優で演出家のジャン・ルイ・バローは、ある能の舞台をみて、「能の静止は息づいている」と感動した。

「生命の源なる神の前に立ち具体的な生の、具体的な状況を背負って「祈り」に向う人の静止が、どうして「息づいていない」などといえようか？

ひろわずに少し残しておく。そうしないとシイの木にかくれているヤマンボに帰り道で迷わされるというんです。迷信とかたづけるより、イノシシや鳥と自然の恵みを分けあうつつましさではないか。……」

いい話だと思う。尊いこころだと思う。まるで、旧約のルツの話をほうふつとさせる（ルツ記参照）。朝日新聞の『語る』欄（十月三日付）はこの書を取りあげて、こう結んでいた。

「近くの公園から太鼓の音が聞こえてきた。旧暦で行う八月踊り。島人たちが輪をかいて歌い踊る。観光客も、観客すらいない。ないその空間に、〝生活誌〟の一ページがあった。」

八月踊りは、元来、娯楽性のみではなく、根本的には「感謝祭」としての意味をもった筈である。だから観客などはいらない。それが、もし「感謝―即ち祈り」的性格を失ってくること

「八月踊り」

恵原義盛氏の近著「奄美生活誌」を拾い読みした。古来、奄美に生き続けて今きえゆこうとする生活慣習、風土、人間等を書き残して、奄美の真のこころをも語り継ぎたいと願ってのことだという。著者はこうも記している。

「こどものころ、よくシーヒレ（しいの実ひろい）に行きました。シイの実は貴重な食糧でしたが、こぼれている実は全部

があるなら、あのヤマンボが本当に叱りに出てくるかもしれぬ。

「サンタ・カララ」の盆踊り

長崎は浦上の山里小学校下（浦上川左岸）に、大きな自然石の碑が立っている。ベアトス様（福者の滝）の墓として、昔から浦上キリシタンに尊ばれてきた。「殉教者ジワンソ、ジワンナ、ミゲル之墓」と刻まれている。その対岸にほどなく立派な教会が建ち、「サンタ・カララ教会」（聖女クララ教会）として人々の信仰の要となった。しかし数年後の迫害により破壊。

その後、潜伏したキリシタンらは毎夏この地に集まって昔を偲び、盆踊りを踊った。聖クララの祝日が、当時の浦上で用いた教会暦によれば陰暦七月十九日で、盆とほぼ同じ時期にあたっていたからである。

真実は、村人は盆踊りを踊ったのではない。いや踊るに踊ったが、役人の目をごまかすカムフラージュにして祈りをしたのである。悲しい盆踊りであった。

カムフラージュが不要になった現在、毎年三人の殉教記念日には必ず墓参の人影がみえ、公然と祈りをささげている。

私には、年毎に参った中・高校生時代、そこに秘められてきた二百数十年間の祈りの重みを測る力量とてなかった。だがそうして育ってきた私は、それを悔いる気持など毛頭ない。

ただ、今はこう願う、「あの奄美の人々の末えいを預かる僕は、その人々に『ヤマンボ』の精神を育んでみたい」、「サンタ・カララの盆踊りの悲願の中に知らずして育てられた僕は、その悲願の実現可能な今、この地の人々とその実りを分かちあってみたい」、と。

× × ×

機械の悪用が、実利の追求が瞑想と祈りへのあらゆる傾向を動脈硬化におちいらせつつある世界で、祈りがもつ『形成する力』を余ますところなく知っていた一人に、サン・テクジュペリがいた。そのテグジュペリが友のアンドレ・ジイドに言う「ジイドよ、この沈黙と祈りの修練を、あなたは何によって置き替えようというのか？人々の魂は今日、胼胝（たこ）のように無感覚なものになりつつあるのだ。

青山玄師

ザビエル・貴久初会見の地

清水城跡を訪ねる

昭和45年から47年8月にかけて当教区報のために、聖フランシスコ・ザビエルについて書いてくださった南山大学の青山玄神父様がこのほど、沖縄に「キリシタン殉教者、石垣永将」についての調査に招かれての帰途、数日間、鹿児島に寄られた。

同師の研究調査のため大学や図書館など、あちこち回られたがその一日、聖師と島津貴久が初めて会見した所、清水城跡に同行した。

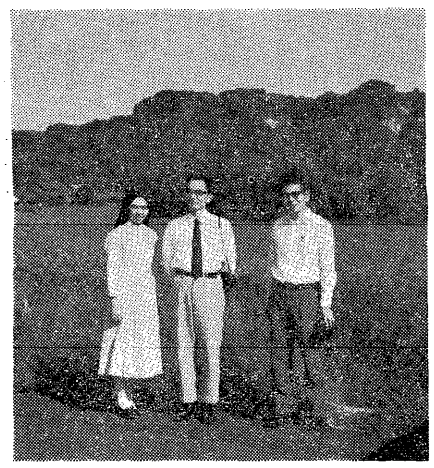
一般に、ザビエルと貴久が初めて会ったのは貴久の居城、伊集院城においてであったと言われ、その跡に記念碑まで建てられているところで、その会見の日は、一五四九年（天文十八年）九月二十九日であったが、この頃は、本田氏、肝付氏らの諸候との戦いのため、島津貴久は東の出城、清水城（きよろず）に居たことを青山師はつきとめられた。そして、ザビエルの行動と考え併わせ、九月二十九日に、ザビエルが貴久と（初めて）会ったのは清水城であったと青山師は結論をくだした。

伊集院城での会見は、二回目以降のことであろう、というのが、青山師の意見である。

そこで、郷土史研究家の意見を聞き、古い薩摩の地図を参考に、その清水城跡を、現国分市のはずれにある「清水」にあると見当をつけ、小川師と、純心高校で日本史を教えているシスター片岡を同道し、国分市の清水の方へ行ってみることになった。美しく稔って頭を垂れている稲穂に囲まれている道を通りすぎ、やがて清水に着き、老婆に、近くの山を聞いてみると、「今はもう何もなく、登る人も居ないが、〝城山〟と呼んでいる」という小高い山を教えてくれた。その山は、古い地図から予想してきた所と一致しており、それが〝清水城跡〟であろうと、なつかしく見上げ、写真などとって帰って来た。

なお、この件の他、ザビエルについての、いろいろな貴重な教えを受けることができた。いずれ、まとめてご紹介したいものと思っています。

（松森記）



清水城跡をバックに

寝具月販賈
婚礼ふとん・和ぶとん・洋ぶとん
じゅうたん・毛布
丸一ふとん店
（教区報広告取扱店）
店主 フーベルト 栗栖二郎
名瀬市春日町4の1 TEL名瀬 ② 4000

久保薬品株式会社
代表取締役 パウロ 久保忠志
常務取締役 マリア・クララ 久保美江
専務 アントニオ 久保俊一
栄養士 テレジア 久保和子
業務主任 パウロ 久保譲二
名瀬市港町4番21号 TEL 09975 ② 3161

小児科 内科 大重医院
医師 マリア・テレジア 大重益子
鹿児島市大竜町8の8
上竜尾バス停前
TEL ㊼ 3019

有限会社 小野応用地質調査研究所
営業種目 温泉及び地下水の物理探査・調査研究・掘鑿、地質及び土質試験調査、以上に附帯した設備工事・設計・研究
所長 グレゴリオ 小野克己
鹿児島市中央町7番3号武町団地509
電話 ㊷ 0488

月星靴奄美地区代理店
合資会社 銀座屋商会
代表 アウグスティヌス 久留平
名瀬市末広町10ノ15
②0156（卸部）
TEL②0313（小売部）
②0364（皮靴部）

奄美においでのときは
味の
とん吉へ
レジナ・マリア 平ヤス子
〒894 名瀬市屋仁川通り
電話 ② 2027

冷暖房水道設備設計施工
県知事登録・水道局指定工事店
重水設備工業所
代表者ヨゼフ 重水義一
上之園町20－2
TEL ㊶1158 ㊽1087 ㊷348 8㊷2623

建築工事一式
（有）池田建設産業
代表者 パウロ 池田権次
鹿児島市下荒田町453
TEL ㊷ 5270(代)

みことばに集う

武野美枝子

今年の重点目標「聖書に親しむ運動」の呼びかけで、なんらかの形でもって、あちらこちらで聖書に関する勉強がなされています。

私たち鴨池教会でも、五月から毎週水曜日午後七時より一時間あまり、竹山神父様のご指導で聖書研究会が開かれております。私もそうですが、ともすれば私たちカトリック信者は一般に、「聖書に触れる」ということが、あまりにも少なすぎるのではないかと思います。今まで、何かしら遠く離れて生活していた私たち信者にとって、この研究会はよい機会だと思います。

参加しているのは、若い者から年輩の方、またシスターも加わって十五・六名ぐらい。話は主に旧約聖書から取り上げられ、旧約時代の歴史的背景やその時代の人々の考え方など、いろいろな資料を用いられ、時には詩など織り交ぜて、さまざまな角度から一歩深く掘り下げて話されます。

「聖書を読む」、それはみことばを通してイエズス・キリストで自身に触れる、すなわち、そこには私たちとイエズス・キリストとの出会いがあるのだと思います。

この数ケ月、みなさんといっしょに聖書を読んできて、私たちにとって聖書とは、切り離すことのできない神の書物だということがだんだん分ってきました。そしてみなさんといっしょにもう一歩深く、聖書に親しめるよう、研究していきたいと思っております。

ルルドは教会の一つの窓口

デプー

ローマを除いて、ルルドは今もキリスト教世界の、第一の巡礼地であるに違いない。

去年ルルドを訪れた人々は三百万人にのぼる。そのうち、六十万人は団体客であった。団体はルルド近辺のホテルや旅館に五・五泊するのが常である。巡礼者の団体の中で、女性は70パーセントぐらいをしめている。

フランスからの巡礼団の統計を手に入れたが、それによると、15才以下の子供たちは4％、15～30才12％、30～60才39％、そして、60才以上の方は45％になる。

職業別にみると、農業の人、いなかからの巡礼者が断然多く45％次は労働者で24％、サラリーマンが22％で、残り9％は統計表に出ていないが、恐らく聖職者とシスターたちであろう。

それぞれの国の団体や個人についてデータを見つけなかったが、一九七二年三月から十月までの巡礼者のうちフランス人は47・7％を占めている。

病人についてみると、去年六万五千人がルルドを訪れている。そのうち外国から来た人は四万八百人でした。一八五八年から、医学的に説明できない病気の治癒の中奇跡としてみられたのは64だった。一九四五年から一九六〇年まで、22だけであるが、ここを訪れる病人達の大きな喜びは、最も大きな恵みであるに違いない。

このルルドの町をみると、且て寒村に過ぎなかった所が、今は盛んな商売をしている。町のホテルのベット数は一万六千ぐらいある。

あまり感心できない土産店が、信心用具などを売っている。それらは美術的には、たいていたいしたものではない。イタリヤ製や日本製までならべてあるお店が、数十軒もある。

ご出現のあった洞窟の附近は、19ヘクタールもの広い土地であったが、その中4・5ヘクタールに、だんだん建物がたてられた。それらは、いくつかの教会、告解専門の聖堂、会議室、病人の救護所、案内所、広報の事務所、印刷屋、博物館、映画館、発電所、司教・大司教らの宿泊所などである。

その教会関係の所で働いている人達は百二十二名で、その中、十三名は善人、十二名は聖堂と香部屋の世話人、運転手、掃除夫がそれぞれ8名、電機屋が5名そしてローソクの世話をする人がやはり5名、大工さんが3名などである。

私が見たところでは、少なくとも巡礼の中心地には、ぜいたくなものは一つもない。ルルドは、まことに感心すべき、庶民の巡礼地である。たとえば、数年前、地下に造られた、聖ピオ十世に献げられた大教会は非常に質素にできており、天井も壁もコンクリートのままで、そこには二万人もの巡礼団を受け容れることができる。

且て、洞窟の周りに作られた鉄の柵、また、岩に懸けられていた病気快復の感謝のしるしとしての多数の松葉杖などの大部分がはずされて、もとどおりの自然の姿が想像しやすくなった。

ルルドには、あちこちに七ケ国語での案内板が設けてある。個人的に来る人のためにも、"一日の巡礼者の信心のプラン"がくんである。

私は二年ほど前、ベルギーに帰っていたが、その時、弟がバザーでルルド行のくじがあたって、私が代りに、二三人の同郷の人々とともにルルドに行ったことがあるその間、ルルドで五日間、共同司式のミサに参加し、告解を聞いたり、話し合ったりしたが、最も心を打たれたのは、みんながお互いに語り合い、助け合って、非常に幸福そうに見えたことであった。

ルルドの精神は、マリアと共にマリアの母たる指導のもとに、マリアに倣ってイエズスを探し求めることである。まことにルルドは福音を体験するとともに、教会の一つの窓口である。

追記 この文章は"インフォルマシオン カトリック インターナショナル"一九七三年七月十二日号を参考にして書いたものである。

修道会だより ③

長崎純心聖母会

幾星霜

「コン鹿児島純心ナ、もと聖ド。マコテ静かでガッコン下は名女学校チュテ、丘ン中腹に洋見ユッカギイたんばジャした。」館の建物見えて、ソイャァハイ感慨深そうに語るKKタクシーのカラン女学校ジャッタアジャンおばさん運転手、なおも話を続けて「トコイが、アヤー日支事変がハイマッテイッキ世相が険呑になって、外人の軍員さんが、引き上げてイッキャッタンド。」……話に熱がはいり、握るハンドルも怪しく、運転が思いやられたが、とにかくこのおばさんの若かりし頃、濃緑の樹林に映える赤煉瓦の洋館の女学校は特異な存在として印象づけられていたらしい。紫原の緑の山なみも今では宅地造成のため影をひそめ、かの洋館も四階建の鉄筋コンクリートと化した。昔の面影はただ記念館が偲ばせるのみである。

西鹿児島駅より都通りを谷山へ向って車で十分。紫原丘陵の中腹に学園の象徴たる聖マリア像がくっきりと浮ぶ。一日の労働を終え、家路へ急ぐ人々の心に安らぎを与えるこのマリア像とフェニックスの校樹の葉かげに建つ創立者の胸像とを思い合わせる時、聖名高等女学校から鹿児島純心女子学園への推移が歴史の重みとなって感じられる。

今年で創立四十周年を迎えたこの学園は、軍国主義的な風潮の満ちて来る時、昭和十五年夏聖名会より本会に教育のすべてが移管された。その時から今日まで、本会が教育母体として布教活動に当っている。

神のみ手を見つめつつ

ところで、長崎純心聖母会は一九三四年六月、聖マリアの潔きみ心の祝日に、大浦天主堂のサンタ・マリアのご像のもとでそのご保護を仰いで創立された。創立者早坂司教は初の邦人司教であり、その祝聖の折、布教聖省長官ロッスム枢機卿より「教育事業を目的とする邦人女子修道会の設立」を要請され、ご帰国後数年にして本会を創立された。その後、修道女もだんだん養成され、軌道に乗ったかに見えた頃、試練は容赦なく襲ってきた。昭和二十年八月九日、一瞬の閃光と大爆音の響きの中に浦上一帯は火の海と化した。教職員および生徒二百余名の尊い生命は平和への先駆けとして献げられた。今でも浦上修道院を訪ねると校門近くに「燔祭の炎の中に歌いつつ白百合乙女燃えにけるかも」（永井隆作）と刻まれた校墓が目につく。一切が灰じんと帰した後、生徒たちの遺体の収容と学園の復興の中心として活躍したシスターの多くは、当日何キロか離れた三ツ山に松脂採集に出かけていて、生き残った者たちだった。その恵みを感謝して被爆者援助のため

マリアの如く

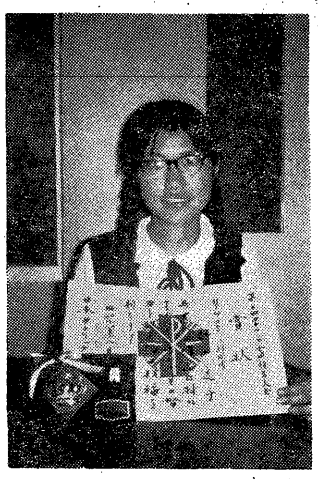
聖母といえば、清貧、謙遜、信頼、単純、従順、寛大、純潔愛、忍耐、祈りなどの諸徳の鑑と仰がれるが、あの有名なお告げの場面は、まさに諸徳を兼ねた信仰の態度の表出とみることができよう。日々の小さなできごとの中で、「なれかし」の精神を通して、清さ・貧しさを愛し、深い祈りに支えられた奉仕に生きることが、現在の純心聖母会員の課題である。

の福祉施設「原爆ホーム」および「老人ホーム」を開設して、かの所を"恵みの丘"と命名し福祉事業への端を開いた。

創立後四十年の間に、東京、長崎、鹿児島に短大・高校・中学が、その他日本各地に十五あまりの幼稚園、保育所が、更に前記の福祉施設が神のご計画の中で実現した。そこで働くシスターは約三百名。当教区内には前記の学園の他に、家族的雰囲気のみなぎる川内純心学園と聖母幼稚園とがあり、布教に従事している。

書道にはげむ

大口明光学園



鶴山逸子さん

さる9月、大口明光学園の学生寮の落成・祝別式に参加したが、その時、もう一つの喜びを聞くことができた。

それは、今年のカトリック全国書道展に学園から多数出品、立派な成績を収めたという事である。同書道展は、今年、第五回を迎えたが、田之上正先生の指導を受けている多数の生徒が応募し、その中の一人、高二の鶴山逸子さんはカトリック新聞賞を得ることができた。そのほかに、推せん5名、特選15名、金賞16名、銀賞21名、銅賞13名という結果であった。

これに掲載されて、ますます、この道に精進することであろう。

教会誌「たまざと」発刊

玉里教会の教会誌『たまざと』創刊号が、十月一日に発行された。

この編集は青年会（編集部）が担当し、毎月発行の予定になっている。初めての試みとあって、記事を集めるのに幾分の心配の色もみえたが、この件に関して幸いなことに、小教区として誕生したばかりの私たちの教会で、壮年会をはじめとし、各会が発足スタートしたばかりとあって、そのメンバー紹介、教会行事、ニュースなど豊富にのせられたことは「ついていた！」の一言につきる。好条件に恵まれ、どうにか新聞らしく、各面を色どることができた。印刷機の都合で、三十余部しか発行できず、すべての信者さん方との対話の場に…との目的に達することができなかったのた残念であった次号から、百部発行の予定である。

常時こられる信徒の方々はもちろんのこと、ミサに来られない方呼びかけを必要とする方など、多くの人達への心の伝達が、この誌を通して為され、文字の上で語り合える「種まき誌」となって役立つよう祈りつつ、次号からに希望をかけ、意見箱を設けて記事を集めるのに努力しています。

（安田記）

高校学連

磯山公園で交わり

今給黎雅子

十月十日、体育の日。生憎と厚い雲におおわれた、今にも雨が降り出しそうな天気。しかし、若いわたしたち高校生にとって、そんなことは気にもかからない。

市内各教会の高校生会と、ラ・サールのロザリオ会を合わせて二十余名の高校生が磯山公園に集合この日一日はスポーツ、レクリエーションを通して親交を深め、これからの活動、研究に互いの助け合い精神を、という意図のもとにザビエル教会高校生会が主催した。

これまでは、高校生会があるにはあっても横の交わりが皆無であったが、この日の交わりを通して教区大会で約し合った"共通体験"を持ち合ったことは意義あることであった。人生には、無駄だと思われることでもやらねばならない時がある。あるいは他人が無駄だと思うのであり、あるいは自分が後で気付くのであるが、それでも、一つのことに熱中する姿には尊いものがある。

当日は、午前十時にザビエル教会に全員集合、ルルドの前で感謝の祈り。バスで磯公園に、徒歩で磯山まで約二十分。着いた時には皆の額にアセ、あせ、汗……。互いに自己紹介、男女一人ずつ目かくしをし"あなた！""あいよ！"相手をさがすのに悪戦苦闘。バレーボール、迷ギターリスト伴奏によるコーラス、"山火事ゲーム"等、それこそ日頃のむずかしい勉強を忘れて（？）ゲームに興じた。皆は腹の底から、まさに笑いこけてしまった様子。あまりの熱心さに時の過ぎるのを忘れてしまった。

本当に楽しかった。嬉しかった！それまで全然知らなかった同胞と親しく会話し、円陣を組む、こんなにすばらしいことは分ってはいても、実際にはプラス・アルファがおまけについてきた感じだ。"今日の日は終った！"、しかし"明日の日を夢みて"わたしたち高校生はこれを機会にもっともっと前進したい。

皆様あたたかく見守り、又、ご教示くださいますように、お願いいたします。（ザビエル教会）

若いわれら

加世田銘菓 若あゆ
お菓子の みのり屋
店主 ヨハネ 野田 稔
加世田市中央通り 電話09935③3324

耳鼻咽喉科 伊東医院
医師 フランシスコ 伊東祐元
鹿児島市真砂町84の21
TEL ㊹ 5654

押川薬局
管理薬剤師 マテオ 押川斌徳
名瀬市入舟町17ノ10
TEL ②0240

おはきものは
中屋で
店主 洗者ヨハネ 中島 厳
鹿児島市仲町納屋通り加根又隣
TEL ㉒8974

大野外科
医師 パウロ 大野 勉
鹿児島市鴨池町482
TEL ㊸6414
㊹4406（自宅）

内科・レントゲン科
鯵坂医院
医師 鯵坂正宜
（エリザベト・モニカ・のり子）
加世田市武田 17831の1
TEL (09935) ② 2675

神学院の一室で

ワンダフル（下）

哲学科一年　中野裕明

本当のワンダフル

私たちの神学校の隣りにカルメル会の観想修道院があります。毎日沈黙を守り神の教えを地でゆく生活をしています。彼女たちは世間から隔離され神の事だけを観想して生きているわけです。世間から隔離されているので、私たちのようにテレビやラジオや新聞で新しい情報を受けそこに喜びを見い出したり、慶事にワンダフルと言ったりできません。もちろん教会関係の新聞は許されているかもしれませんが。従ってそういう意味で私たちより不利な状態にあると言えます。祈りと労働との繰り返しの単調な毎日の中に、私たちからみると何の変哲もない毎日の中に、どのような喜びを、或いは驚きを持って彼女たちは生活しているのでしょうか。換言すれば彼女たちの発するワンダフルと私たちの発するワンダフルとはどのように違うのかという疑問が生じるわけです。

答えは明らかです。彼女たちのワンダフルの方が私たちのそれより意味深長だという事です。なぜなら多くの事柄に接し、驚く機会の多い私たちにくらべ彼女たちは私たちと同じ感度を持つ人間でありながら、接する事柄が少ないのでそれだけ驚きが深くなるからです。例えば私たちが食事にきゅうりを食べたとします。その時私たちは、このきゅうりはおいしかったとか、小さい割には高かったとか、どこどこの店で買ったとか等々ぐらいの事しかきゅうりに対して思わないかもしれません。ところが修道女はどうでしょうか。彼女らは自分できゅうりを作っています。自分で料理をします。きゅうりの種を蒔いた時からほとんど毎日きゅうりと対面し、その成長を自分の子供のように見守り、その性格をよく知っています。きゅうりは人間のように自分から語りませんから、彼女はきゅうりに対しその生命をささえている神様の事を考えるかもしれません。きゅうりの種を蒔いたらなぜスイカではなくてきゅうりになったかという事も或は考えるかもしれません。とにかく自分と関わる事柄が少ないので、いろんな事を深く考える事ができるのです。従ってこのような修道女から発せられるワンダフルは本当の意味でのワンダフルだと言えます。私たちの生活には情報や事柄が多すぎるので、修道女のように深い意味でワンダフルと言えないかもしれません。

本当の幸せ

しかしながら私たちは幸いに信仰を持っています。日曜日にはミサにあずかる事ができます。一週間は忙しくてそんな悠長にワンダフルなんて言えなかったかもしれない。でも日曜日には言えます。なぜなら御聖体の神秘にふれる事ができるからです。あの白いホスチアがキリストの体である。これ程驚くべき、また不思議な事があるでしょうか。私たちが聖体の神秘、キリストの神秘、教会の神秘に対し驚嘆と讃美を発する事ができるなら、これこそまさにワンダフルと言わねばなりません。そしてその時、人間は本当の意味の幸せを感じる事ができるのではないでしょうか。

東田先生歌集を出版

当教区報の〝短歌〟の選者として、数年来ご指導をいただいている谷山の東田喜隆先生が、このほど、歌集を出版された。

それは「桜島鳴動す」という題で、四百首が収めてある。昭和十年、十六才のときから三十七年間の作品より自選されたものである。

短歌

東田喜隆　選

大根占　川元　ふみ
ラケ師より享けしみ教へ守り抜き九十一才みまかりましぬ
◇多くを言う必要はない。「九十一才」に千鈎の重みがある

阿久根　岩崎すま子
しびれたる躰ずらせてたぞがれのベッドにとどくブザーを押しぬ
◇病者の孤独感とそれに耐え抜こうとする悲痛さがある。

鴨池　土元　節子
ヴェール深く涙のでう君の手に光る誓願の証しの指輪
◇「のぐう」は「ぬぐう」に同じ。下句で感傷を脱した。

ザビエル　黒葛原兼之
赤き芽の長く伸び立つゴムの木の厚き広葉に雨後の陽の照る
◇蘚味のない、素直な写生である。「厚き広葉」がよい。

鴨池　本下のぶ子
夏山は風と子等生み又いずこへ去らしめたるや風と子等とを
◇採る人は採る。夏山の幻想。童心と寂寥感。特異な感覚。

吉野　重野　芳子
動物園に降りたつ孫等声あげて乗りもの目がけ走りゆきたり
◇情景が目に見えるようである。この様に定型を守って下さい

吉野　大沢　芳枝
小声にて供えものの貧しさを詫びつつ臍を仏壇に据う
◇受洗した作者の、亡き人の仏壇へ向う謙虚さに惹かれる。

名瀬マリア　泉二　いち
蘇鉄の山低きより出づる名月によりゆく雲のうごきを追ひぬ
◇中心がややはっきりしないが移りの変化が興味深い。

出水　八郷恵美子
右の手にすらすらと書く夢を見き半身麻痺になり幾年
◇初心の方としては、表現に無理がなくよくまとまった。

名瀬マリア　野村秀晃

島を恋ひ人を恋ひ来しふるさとの黍の穂波のさわめきをきく
◇しばらく郷里を離れたときの作品であろうか。しみじみとこころあたたまるものがある

短歌は〒八九一―〇二鹿児島市下福元町二六七ノ六東田喜隆先生に、俳句、詩は〒八九五川内市隈之城一〇〇一川内純心学園二方彰先生にお送り下さい。その他は教区報編集部まで。

切りは毎月二十日。

なお、短歌や俳句、詩を投稿くださる時には、住所のみでなく、所属教会名も併記してください。

おたがいが、良く分った方が親しみも増すことでしょうから。

私はドイツをこう見た

初ミサの祭壇へ

ローマ旅行からの帰りの車中で一人のシスタが「うわぁ、この駅は馬のにおいがして臭いですねえ！」と言った。同じ思いだった私は、すぐに「イッヒ、アウホ！」と答えた。とたんに二人のシスタは大笑い！なかなかおさまらない私は真赤になりながら、「なぜ笑うのか？」と聞くと二人はあなたの答えは「私も同じくあなた方に馬の臭いをさせています」との意味になるとの返事！まことに悲しいかな！この程度のドイツ語？しか話せない私に帰国早々ドイツの印象を何か一言書いて下さい、と言われて大弱り！ホトホト困ってしまったあげく、ことばが話せないことと、心で感じたこととは、別なのだと、自分に言い聞かせて……やっとペンをとりました。

ドイツでまず目につくのは、何といっても自然の雄大さ、すばらしさでしょう。

ゲーテ・インスティトウトで共にドイツ語を学んだ日本人学生たちもしきりにそれを口にしていました。汽車の窓から見られる森の木々、家のバルコーンの色とりどりの花々、一段と高くそびえて見える教会の塔、延々と続いた草原に、のんびりと草をはむ乳牛の群れ！それはいとものどかで、この地に田園交響楽が生まれたのも最もだと思われます。

人々の生活もゆったりした感じで週休二日制のせいもあって週末には、よく家族ぐるみのドライブ風景が見られます。又ここではどこに行っても町や村の中心に、すばらしい教会が見られ、信仰が如何に人々の生活の中心をなしているかが、うかがわれる感じです。

ゲーテ学院の教師は、ドイツの一つの大きな宝は、教会の中に見られる信仰と音楽と芸術のみごとなハーモニーだと話されましたが正にその通りで、教会建築のすばらしい芸術と、パイプオルガンのかもし出す美しい音色に、キリストを求め、キリストに聞き、キリストに生きた、人々の深い信仰の息がじかに感じられる思いがしました。

ドイツで特に深い印象はと言えば次の二つをあげることが出来るでしょう。

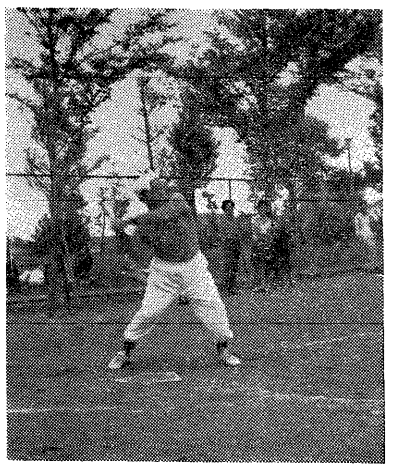
その一つは何といっても新司祭の初ミサです。私はレデンプトール会に誕生した、四司祭の中の一司祭とミタマヤ神父様（入来教会）の御親戚の方の初ミサにあずかる光栄を持ちましたが、村や町から、遠くは歩いて靴の底がすり切れるほどのところからまでも、新司祭を祝して初ミサに参列している人々に、強く心打たれました。

初ミサは全く野外で行われ、広い草原に設けられたすばらしい仮祭壇を囲んで、一万人以上の人々と共に祈る新司祭の姿は実に言葉では表現できないものがあります。

初ミサの催される地方では、家という家、窓という窓に、旗が出され装飾がなされ、道端には花飾りやアーチが立てられて、それは荘厳な感じです。ここを新司祭とその両親は花馬車に乗って、音楽隊、団旗を持った各青少年、少女そのほか諸団体の行列の後に続いて、家から草原へと向うのです。

私は会のシスタたちと行列に参加しましたが、胸に熱いもので一杯で、この時ほどキリスト教国の真の美しさを見、感じた時はありませんでした。

（レデンプトール女子宣教会）



ホーム・ランン！

ソフトボール司祭団青年をくだす

十月七日（日曜日）あちらからもこちらからも運動会らしい音楽が聞こえてくる。

この日、市内の青年達と司祭団とでソフトボールの試合を予定していた。メンバーが足りないのでラ・サール会のブラザーにも入ってもらったら…とたずねたところその日は、ラ・サール学園でも、体育祭という。青年達の中から何人かスカウトしたら…と思って行ってみると、青年の方もそれほど多くないという。いろいろ相談して、男子を青年組と司祭組に分けて、女子を加えて二つのチームを作ってやるにことなった。

足りないところ、不都合なところも、みんなが智恵を出し合って何とかなった。

女子の中には、生れて初めてボールを握る、という人も出て来る仕末。フォア・ボール無し、盗塁なし、という珍プレイ。一時は、場外を打ったら〝アウト〟なんていってたぐらいだから、推して知るべし。あまり広くない紫原中央公園では、若手の選手は場外なんぞ何のその、と思っていたが、案外で、司教さまや田辺師など、ロートル組（？）がハッスルして若手を、てこずらせ、5対4で、司祭団の方が勝という番狂わせ。

ともあれ、このゲームをするにも、公園側との打合わせ、お互いの教会の青年会と話し合って、みんなの都合の合う時を選び、道具や弁当と、裏方さんは大変だったことだろう。

秋空の中、思いっ切り体を動かし、そう快な感じ、それよりも、隣に居る人と、すぐ話し合える雰囲気、やっぱり外は良いなあと思った。

一回戦では物足りないのか、誰言うとなく、二回目をやっていた次々に加わる人がふえて、十余人での珍ゲーム。そのうち、スリーアウトでの交替は早すぎると言い出して、フォー・アウトでの交替という特殊な規則でやっていた。こうしたフランクなつきあいがここだけで終ることなく、この日をきっかけにして、お互いがもっともっと話し合うようになりたいものと思う。そこから、何かを生み出したいものだ。

祈禱の使徒会

朝の奉献

いつくしみ深き聖心よ。主が今日全世界の各聖堂の祭壇の上にて犠牲（いけにえ）とならせ給う聖目に心を合わせて、本会会員の求め得んとする願いのため、特に教皇聖下の今月中のご意向のため、すなわち……のため、今日の祈りと働き、喜びと苦しみを聖母マリアの汚れなき御心に頼みて献げ奉る。

【一般の意向】永遠の世界への努力

【布教の意向】アフリカ諸民族の調和と発展

あとがき

今日、福岡での黙想に出発、という午前二時。やっと終った。

いや、これが私に与えられた仕事。これができないようで、何ができるというのか。夢のみ追って何もしない人、批判はするが、自分がどこに居るか考えない人…。

このような私たちにも、主は向こうから来てくださる。せめて、それを拒むような失敗をしないように。

七田ボーロ神父様からの美しい便り。ハット目覚まされる感じ。どうもありがとうございました。

やがて待降節、いや、我々にとっては、毎日が待降節だ。ありがたいことだ。私たちも主になって、行かなければなるまい。

今回の編集会議はとても活溌で多くのものを学ぶことができた。みんな別々だけど、いや、みんな別々だからこそ、集まると、力になる。さて、では行ってきます。

プラスチック標示板
名札より……大型看板まで
彫刻，切抜，成型，切断，接着
プラスチック総合加工
三公文真堂
店主　マテオ　吉原哲哉
鹿児島市草牟田町電車通り
鹿銀草牟田支店横TEL㉓1340

小さな店・豊かな経験・豊富な商品
実印・ゴム印・認印・会社印趣味印・名刺
駅前ハンヤ
玉泉堂　西鹿児島駅前
電話㊷―4383
フランシスコ・ザビエル津曲義夫

写真版　凸版・平版
広告凸版・写植・図案
㈲中山写真製版社
鹿児島市宇宿町 272の4
TEL㊺2622

各種印刷　正確丁寧
多色刷オフセット
写真植字　迅速
復写式カーボン
印刷センター　鮮明堂
名瀬市末広町18―5
電話（代）②0279

エレベータ・エスカレータ・ダムウエータ・各種立体駐車場・冷暖房外
ビル設備・電装品販売設計施行保守
丸山電機施設
フランシスコ・ザベリオ
代表取締役　丸山典男
鹿児島市呉服町2―26(0992)24―2471(代)

カトリック書店
セントポールコーナー
山形屋中四階書籍部わき
聖パウロ書院
鹿児島市荒田1丁目33の16
TEL（55）5365

カメラとカラー現像
丹羽写真機店
取締役　ヨゼフ　河内嘉純
専務　パウロ　金森栄三郎
名瀬市末広町1ノ11
電話②2020